

令和2年度地下水質測定結果について



環境省は、2020年度における地下水質測定結果及び全国の地下水汚染事例における汚染原因・対策等の状況を把握するための調査結果を取りまとめました。

調査井戸総数は、8,358本(前年度8,339本)であり、そのうち概況調査が3,103本、汚染井戸周辺地区調査が1,112本、継続監視調査が4,143本になります。

全体の環境基準超過率(何らかの項目で環境基準を超過した井戸数/全調査井戸数)は5.9%(前年度6.0%)でした。項目別では1999年度以降、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準超過率が最も高く、3.3%でした。汚染井戸周辺地区調査でも硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準超過率が最も高く、次いでふっ素、砒素の順でした。継続監視調査でも硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準超過率が最も高く、次いで砒素、テトラクロロエチレンの順でした。

また、全国的な地下水質の状況を過去5年間の全調査区分で見ると、VOC(揮発性有機化合物)が環境基準を超過した井戸がある市区町村数は319で、全市区町村の19%、同様に重金属等(砒素、ふっ素、鉛等)では434で同25%、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素では443で同26%を占めていました。

さらに、環境基準を超える値が検出されたことがある全国の地下水汚染における全事例件数は8,943件でした。VOC事例は2,692件、重金属等事例は2,505件、硝酸・亜硝酸事例は3,572件でした。超過事例件数が最も多かったのは硝酸・亜硝酸で、次いで砒素、テトラクロロエチレンの順でした。汚染原因が特定又は把握された事例4,887件でした。

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素についての汚染源は、不適切な農業・畜産排水や生活排水であり、重金属等については自然由来、VOCについては工場・事業所からの排水等によるものとされています。

当社では、多くの地下水項目の分析について長年の実績があり、短納期での対応が可能です。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談ください。

資料 [2022年3月14日付 環境省報道発表資料](#)

環境検査箇所 鶴谷佳代

